

アルゼンチンアリ勉強会

平成22年12月22日に近畿地方環境事務所野生生物課の呼びかけで「特定外来生物（アルゼンチンアリ）に関する勉強会」が近畿地方環境事務所会議室にて開催されました。日本で最初に広島県で定着が確認されたアルゼンチンアリが近畿地方の神戸市、大阪市、京都市でも定着が確認され、今後、住民生活にも影響を与えることが懸念されます。このような状況を受け、既存の知見や対策について、情報交換を目的に勉強会が開催されました。

最初は、近畿地方環境事務所野生生物課の深田富士雄移入生物専門官から「アルゼンチンアリについて」、次いで自然環境研究センターの岸本年郎上席研究員及び水島大樹研究員から「アルゼンチンアリの分布と防除の試み」の講演がありました。

中書島のアルゼンチンアリ

近畿地方で定着が確認された場所の紹介がありました。生息が確認された沿岸の工業地帯である神戸市はポートアイランド、大阪は大阪港、そして内陸部の住宅地域での中書島付近の紹介がありました。自然環境研究センターではこうした定着の報告があった生息地の調査が行われています。

私は、研修会などで中書島付近の生息地は、四方を宇治川、宇治川派流、濠川で囲まれていることからアルゼンチンアリの移動に多少障害になるのではないかと説明していました。ところが今回の講演で使われていた資料の一部に中書島の付近の地図がありました。平成22年12月に自然環境研究センターが行われた調査では、驚いたことに宇治川派流に架かるべんてんばしを越えてしまいました。

勉強会での話を確認するために平成22年12月24日に現場調査を行いました。寒い時期でしたが、橋のたもとのコンクリート護岸部分の亀裂の付近で足早に活動しているアルゼンチンアリが確認できました。この場所は、昨年春に調査を行いました。確認できなかった場所です。おそらく、昨年の夏ごろに橋を乗り越えてしまったのでしょう。アルゼンチンアリの自力移動は、年間数百メートルといわれています。これから確実に生息範囲を広げるでしょう。

横浜港における防除事例の紹介

平成19年2月横浜本牧ふ頭でアルゼンチンアリの生息が確認されます。そこで平成19年10月から12月にかけて横浜市、環境省、横浜埠頭公社、東京大学、自然環境研究センターが協議し、平成20年4月から駆除に乗り出されました。基本的には市販のベイト剤による駆除でした。平成20年4月に298個のベイト剤（毒えさ）を設置し、2週間ごとに見回り監視されました。その結果、平成21年9月には、アルゼンチンアリを確認することができない状態になりました。

しかし、平成22年の9月には、ごく少数のアルゼンチンアリが確認されました。難防除といわれるゆえんです。とはいえ、横浜港の事例は大変参考になるものです。ベイト剤でもそこそこ防除できる可能性を示したものです。

一斉防除

アルゼンチンアリは、場合によっては数百匹の女王アリ、数千匹以上の働きアリの大きなコロニーを形成します。既に生息が確認された地域では、大きなコロニーが形成されていると考えなければなりません。そのため、特定の住宅内に侵入した群だけを殺虫剤などを使用して駆除できたとしても、その周辺には、同じコロニーの仲間がたくさん生息しています。そして、やがては住宅内に再侵入する可能性は非常に高くなります。横浜港の事例のように広範な地域に対して一斉に駆除を行うことができるかが、駆除効果を高める要点です。



べんてんばし

橋の向こう側が中書島方面



べんてんばし遠景

矢印のところが今回確認した所



べんてんばしの基礎の護岸の巣
に出入りしているアルゼンチンアリ